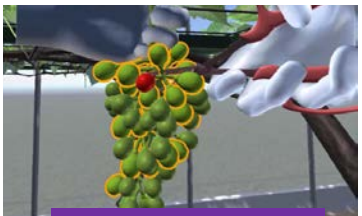
【初年度実証成果】大社観光ぶどう園ほか（島根県出雲市）

実証課題名：「ハウス環境自動制御による加温栽培ぶどうの栽培・販売体系改善」及び「ぶどう栽培匠の技　を次世代に継承するためのＶＲ学習システム開発」の実証
経 営 概 要：72.3a（ぶどう72.3a）　うち実証面積：ぶどう65.1a　　2名（家族経営）

導入技術　①スマートファクトリーシステム（改良）　②農業日誌・圃場管理ツール　③ハウスモニタリングシステム　④自動換気システム　⑤養液土耕システム　⑥ＶＲ技術による栽培技術伝承システム（改良）

③ハウスモニタリングシステム

④自動換気システム


⑥VR学習システム

目標　デラウエア・シャインマスカットともに　◆単収１０％アップ　◆秀品率１０％アップ　◆単価６％アップ　◆労働時間１３％軽減　◆新規ぶどう就農者の秀品率３０％アップ

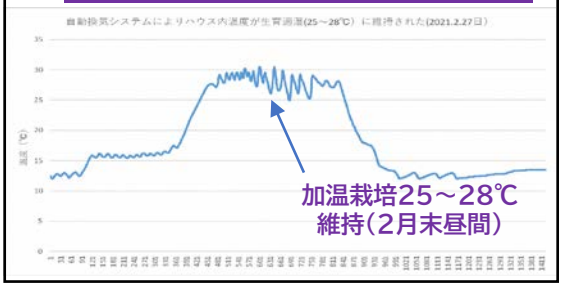
1　初年度の実証成果の概要

○ハウス内温度モニタリングに連動した換気の自動制御と遠隔調整により、側窓の開閉及びほ場間移動等に係る労働時間を61.2%削減でき省力化が実現できた。また従来手記帳だった栽培管理記録を電子化し、慣行との比較が可能となった。養液による果粒肥大や高品質化等の効果が表れるのは4月以降となる。

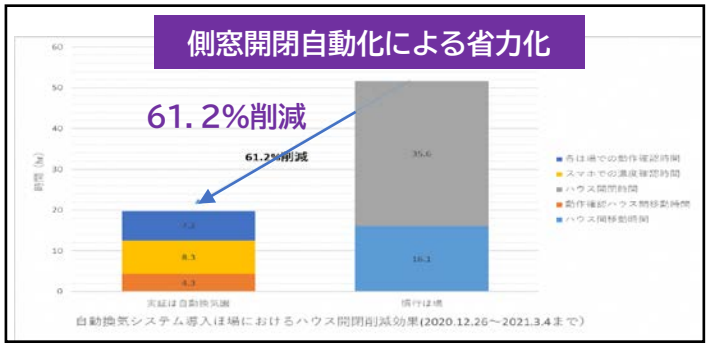
○シャインマスカットの摘粒作業については、VRで学習、作業を体験できる技術伝承システムが完成した。

2　導入技術の効果

自動換気による生育適温の維持



側窓開閉自動化による省力化



記帳の電子化による栽培管理

VR技術を活用した栽培学習システム

3　今後の課題・展望

○積算温度等のデータ蓄積とAIの画像判定機能をあわせ、より精度の高い出荷予測システムを完成させ、単価6%、単収10%のアップ目指すとともに、ハウスの自動化によって労働時間のさらなる削減を目指す。

○完成したVR学習システムを新規就農者のトレーニングに活用し、新規ぶどう就農者の秀品率30%アップを目指すとともに、剪定、摘房のシステムを完成させ、市主催のアグリビジネススクール等での活用を図り、新規就農者確保につなげる。

問い合わせ先　島根県東部農林振興センター出雲事務所 農業普及部　出雲地域振興第三課
（Email：yoshino-katuhito@pref.shimane.lg.jp）